※　未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:19（90%）　②:2（10%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:17（81%）　②:4（19%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:15（71%）　②:6（29%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:15（71%）　②:5（24%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（5%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:16（76%）　②:4（19%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（5%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:17（81%）　②:2（10%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:2（10%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:17（81%）　②:3（14%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（5%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:14（67%）　②:6（29%）　③:1（5%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:17（81%）　②:4（19%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:19（90%）　②:2（10%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 14～18）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　1（5%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　16（76%）

③他大学の FD 活動の視察：　2（10%）

④その他：1（5%）　・・・「担当者のミーティングを丁寧に行いました」

未回答：　3（14%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　6（29%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　16（76%）

③他大学の FD 活動の視察：　3（14%）

④その他：　1（5%）・・・「複数担当者の事前ミーティングによる運営」

未回答：　1（5%）

設問 16　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　回答：8 クラス（順不同）

[1] グループ内でのリーダーの負担を均等化することにより、グループメンバー全員が積極的に参加することができた。

[2] プレゼンテーションの前に資料を提出させ、内容やデザイン等を確認し補足を講義内で実施した。

[3] 学生の授業評価アンケートの結果を見ると、毎年、高い満足度を達成できている。その背景としては、やはり、単なる受動的なレクチャー形式ではなく、すべてのテーマに関し、必ずグループワークを行うなど、アクティブ・ラーニングを当初より導入してきた成果であると考えられるので、今後もこの方向性を維持したい。

[4] バラグラフライティングを利用したアクティブラーニングにおいて，学生同士でディスカッションさせ，同年代が抱える悩みに対する意見や考え方の違いについて相互理解に努めた。

[5] 内容一部変更した。（図書館利用指導ガイダンス → 大学院生ポスター発表見学）

[6] パワーポイントを改訂した．基本的に昨年度と同じ内容であるが，minor change を行ったので，それに応じてスライドを添削した．グループ学習の議論を進めるための補助となるシートを 4 種作成し利用した．

[7] ・講義資料(パワーポイント)を、より理解しやすいよう改善した。

・提出締切があるもの(レポートやプレゼンテーション資料など)は、早めに告知した。

[8] 教室が変わったので、機器の準備や設定に力を入れた。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　15 クラス（順不同）

[1] 学生を見学・自習という形で学外（県の施設）に連れて行き、現場の養殖や水産について理解させたことは評価できるかと思う。

[2] 学生が自分の問題として考えられるように、体験型の学習を重視した。

[3] 文章の書き方をステップを踏んで少しずつ進めていったことは、学生の負担感も少なく目標をクリアできたと考える。

[4] 学生自ら考えていくことに中心をおいたので、自由に勉強できたのではないかと思う。これは評価できる一方、本来の課題とは外れた方向にいく学生がいた。学生はそれぞれなので、強制しない教育というのは難しいと感じた。

[5] ・大学教育入門セミナーとして、またアクティブラーニングとして、グループワークも含めて学生に対して様々な、また適切な課題を与えることができた。

・学生が取り組んだ課題に対するフォローがやや不十分であった。

[6] 大学教育入門という観点から、大学の施設や図書館利用の紹介を入れた。また、図書館の機能を活用して文献検索の学習を授業開始時に入れた。この点は、入学したての学生にとっては知っておきたい基本事項であると思う。授業の中核的ねらいとして挙げている「情報収集能力」、「文章表現力」、「プレゼンテーション能力」に関わる内容については、学生の関心事項である障害児教育や障害福祉に関する地域の課題を取り上げたので、意欲的に取り組むことができたと思う。また、宮崎市障がい福祉課や宮崎市自立支援協議会と連携して、地域課題を紹介をしていただいたり、学生のプレゼンテーションに参加していただき、意見を述べていただいたりしたので、学生も各自の課題への取組が真剣なものになったようである。ただし、外部機関と連携しながらの取組は、打ち合わせや日程調整などに時間がかかる。

[7] 継続して，欠席者のアフターケアを図り，出席してきたときに，提出物や宿題を説明する。

[8] ≪評価できる点≫：16 回の講義における 8 回以上のグループディスカッションの時間を設けて、学生のコミュニケーション能力を向上させるため発表と討論を組み込んだ。

≪反省すべき点≫：個人個人の異なる理解度に対して、速やかに対応することができなかった。

[9] グループ学習は社会的な拡がりを持つテーマであり，私自身，何のバックグラウンドもないのでうすっぺらな議論になる.

[10] 少人数クラスでの実施であり、通常のクラスに比べて、個人の特性・進捗にあわせた指導ができた点は評価できる。一方で、少人数クラスではあっても、全員を能動的に議論に参加させることは非常に難しかった。どうしてもよく発言する学生と、単に聞くだけの学生にわかれてしまう。次回は、全員に一律発言する場を設けるなどの工夫をもっといれてみようと思う。

[11] ・評価できる点

→学生が理解しやすい事例を説明には取り上げるようにした。

→教科書とは別に、講義資料(パワーポイント)を作成し、今何をすべきかを常にプロジェクターで表示するようにした。

・反省すべき点

→昨年度から講義の実施時間帯が変わったことに伴い、一回り大きい教室を今年は使えた。昨年度は、グループで議論する際に手狭だったため、何度か図書館のセミナールームを利用したが、今年は使用しなかった。しかし、学生にとって、図書館で実施するメリット（図書や文献の調べやすさ）が今年はなかったので、どちらが良かったかを検討する必要があると考えている。

[12] 小グループ活動に付き添える人材を確保しなければならない。

[13] 複数の教員で実施しており、他教員の授業方法等につき、学生から問題点の指摘があった場合、どのように当該教員にそれを伝えるべきか、迷うことがあり、今後の課題であると感じている。

[14] この講義は今年度初めて開催する農学部グローバル学生（タイ人留学生）向けのオムニバス科目であり、回答者である私（＝コーディネーター）が講義全コマの内容や雰囲気を把握しているわけではないので、この FD 活動レポートは多分に予測も入っています。

[15] 全体的に

・学習のスタートとして、お互いが自由に話せる関係を構築したことは後に続く活動をより活発にさせたようである。特に「系」による運営であるから、お互いが教科を超えてのびのびと語る場面を設定できたのは好かった。

・学生同士のコミュニケーションを誘導するための仕掛けがうまく機能して、参加者が仲良くなれたのがよかった。

・専修の異なる学生が和気あいあいとグループ学習を重ねる姿は微笑ましいものであった。さまざまな仕掛けが功を奏した

と思われる。

・最終レポートでは、内容上の不満が多々あるとはいえ、1 年生が形式だけでも整った文章を作成できるようになったのはまずまずの成果といえる。

・グループ学習と発表、また個人レポートの作成の両方の作業があったのもよかった。

以下各回について記す。

1　全体ガイダンスにつき省略

2　学び合う集団づくり

アイスブレイク一第一印象をヒントとした自己紹介一他己紹介という流れで行ったが、お互いの「結界」を壊すことはできた。感想に「人見知りで怖かったけど…」という自己把握が多かったのは驚きだった。

3　大学での学び方ガイダンス

・ノートテイキングについて解説したものの、肝心の高校時代のノートについて無知であった。その後宮崎市内の高校の授業（現代社会）を参観する機会に恵まれ、高校生がノートを持参すらしていない事実に驚いた。大学でのノートテイキングというよりも、ノートをとるとはいかなる作業かを論じていかないと、大学 1 年生には伝わらないかもしれない。

4　図書館ガイダンス

一年生には毎年前期中に必ず受講させるべきである。また、レポート作成の 10 の Step をどうイメージさせるかが以下の展開の課題の一つだろう。

5　本を紹介する

新書からスタートしたのはよいレベルであった。しかし提出物の出典の書式（『や「など）が徹底できなかった。返却の際に喚起すべきだった。

6　リーディングのガイダンス

学生一人一人の熱心な感想が書き記されているのがほとんどだった。

7－9　レポートの書き方（5/27, 6/3, 6/10）

・三回では時間が足りない。剽窃防止、論証型レポートの骨格、「論証とはなにか」は講義できたけれども、「引用とパラフレーズ」についてはリザーブブックで学ぶよう指示しただけであった。不足分は専門教育入門セミナーで補うよう引き継ぐのがよいだろう。

・大学でのレポートはある種独特の文章であるので、1 年生が上手く書けないのは仕方がない。本来であれば、学部単位でレポートの書き方と評価基準について共通理解を図りたいところ。非現実的なのは重々承知しているが。

・後に「地域の課題についてのグループ研究」で最終レポートを書くのだから、テーマを同一のものあるいは共通のものにするか、最低限でも関連させることが可能なものを選択するべきであった。

10　レポートを発表する

強制選択のタスクで根拠に耳を傾ける楽しさは定着できたが、その後のスライドによる可視化への接続が足りなかった。

11-14　地域の課題についてグループ研究１－４

・もっと学生に時間を与えるにはどうすればよいだろうか？というところ。特に、最後の「地域」に関する課題は、もう少し時間をゆったり取ることができなかっただろうか。たとえば、レポートの書き方のところから、同じトピックでの指導とすると、学生にとっても慌ただしさが軽減されるのではないかと思う。

・グループの欠席者に対する対応、さらに私的理由で欠席すると迷惑をかけるなど、学習以外の面でも学ぶ項目が見つかった。

15　グループ研究の成果を発表する

ポスターセッション型（１グループ 2 セット）で行ったのは正解であった。各グループが授業時間外にミーティングを行

い練習した成果が現れていた（提出資料に写真を付す）。

公開型で文系の諸先生に呼びかけたところ、７名の先生の参観があったのは驚きでありまた喜びでもあった。

個人レポートの採点基準の明確化（３人の協議により作成）

内容についてはルーブリック評価票、形式面についてはチェックリスト型を作成し、学生たちに提出する前のチェックリストを配布して、前述の通り効果が見られた。

内容面に関して言えば、参考文献を記載して論じることまでは到達できた。ただし、注をつけながら自身の論を展開させるところまでは半期では難しいとも判断できる。

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　21（100%）　　②いいえ：　0（0%）　　未回答：　0（0%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？**（複数回答可）**

①聞いて理解する：　12（57%）

②読んで理解する：　9（42%）

③自分の考えをまとめて話す：　17（81%）

④自分の考えを文章にまとめる：　20（95%）

⑤討論する：　19（90%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　20（95%）

⑦その他：　0（0%）

未回答：　0（0%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　20 クラス（順不同）

[1] 学科の内容に則した課題を設定し, 3 回にわたってディベートを実施するなどした.

[2] 地域課題(宮崎の産業を学ぶ)の回を設け、グループワークによってコミュニケーション能力の育成を行った。

[3] いくつかのテーマに対して、感想等を書かせ自分の考えを文章にまとめさせた。

[4] 地域に関連する題材での能動学習の実施、現地訪問の内容として、宮崎市内（木花地区）の繁殖農家を訪問して聞き取り調査を行い、内容をスライドにまとめプレゼンテーションを行った。また、別のグループでは宮崎県産の農産物について調べ、その食材を使用したメニューを話し合いで決定し、調理・試食という体験を通してコミュニケーション能力の育成に関する取り組みを実施した。

[5] ３1名のクラスで、意見を言い、その意見に対して議論をするのはあまり上手くいかない。グループ学習が一番効果的だが、それに

も限界がある。「ピアで学ぶ」というレポート作成法をやる中で、グループ内でコミュニケーションが行えるように、指導した。コミュニケーションがよくできたかどうかは、そのレポートや発表にそれぞれの個性が出ているかどうかで多少判断できる。結果的に比較的個性のあるレポートが出たように思うが、中途半端なものも多く見られた。いずれにしても「コミュニケーション能力」は簡単に育成できない。卒業までに気楽に質問できる雰囲気をクラス内に作っていくことが必要だ。

［6］ 前述の通り、初期に集団づくり、最終回にポスターセッション型発表による交流的要素を取り入れたアクティブラーニングがあげられる。

［7］ ・それぞれの課題について、プレゼンテーションまたは作品展示を課し、他学生の前での発表会を実施した。発表会では質疑応答時間を設けた他、評価表により学生間での相互評価を行った。

［8］ ・アイスブレイクの手法を用いて、他者との会話をスムーズに行うことに取り組んだ。

・グループによる活動を多く取り入れ、他者と協力して活動し、最終プレゼンテーションにつなぐことを促した。

［9］ 設問 20 でチェックをつけた取り組み（①③④⑤⑥）を実施した。

［10］ 宮崎市障がい福祉課や宮崎市自立支援協議会と連携して、地域課題を紹介をしていただいたり、学生のプレゼンテーションに参加していただき、意見を述べていただいた。

［11］ 1分間スピーチ、グループワーク、口頭発表会、ライティング演習を実施した。

［12］ 見学レポート，パラグラフシート，およびリサーチレポートを課してコミュニケーション能力の育成を図った。また，クラス全員による自己紹介でコミュニケーションの重要性を理解させた。

［13］ グループでの発表と他メンバーの発表を聞いた後、討論を行うように設定した。

［14］ 互いにレポートやプレゼンテーションを発表させて、その内容について議論させた。少人数の場では、発表者と質問者の議論だけにとどまらず、周囲もそれに参加するような場合もみられた。

［15］ ・授業の序盤で、グループ分けをし、可能な限りグループによる討論を取り入れた。

・コンセンサスについて理解し、グループでコンセンサスの形成に取り組んだ。

・地域の課題についてグループで討論し、1 つのテーマを取り上げ、プレゼンテーションを行った。

・他グループのプレゼンテーションを聞き、良かった点と悪かった点を各自記入し、後日、回覧した。

・プレゼンテーションで取り上げたテーマに関して、各自レポートを課した。

・レポートを事前に提出させ、学生相互によるレビューを課した。

［16］ 11 人を一班に分け、ディベートを実施した。

［17］ プレゼンテーション後に教員がファシリテーター役となり、ディスカッションを深める取り組みをしている。また、自己理解・他者理解を促進するため、専門家によるコミュニケーション講座を設けている。

［18］ グループワークをした

［19］ 各自与えた課題について調べてプレゼンテーションをさせた。

［20］ 医学部医学科「専門教育入門セミナーM」は、生命倫理入門として 2010 年度より開講して以来、アクティブ・ラーニングを導入しており、全ての講義テーマにおいて、レクチャー形式ではなく、グループワークや、学外からお越し頂いた「白菊会」の皆さんと交流することを通じて、以下、「3つの学習ポイント」を達成目標として掲げてきた。

1．生命尊重の精神と生命（いのち）に対する畏敬の念の涵養

2．医学生及び医療者に求められる社会的期待と責務の自覚

3．自己決定能力と市民社会モラルの育成。

本講義の教育目標は、「医学部に入学した医学生として専門教育を受けるにあたり、身につけておくべき生命の倫理に関する基礎知識と、医学生及び医療者に求められる基本的素養を修得すること」であり、そのために今後も、各テーマ毎にグループワークを実施し、主体的な授業参加を学生に求める方針を強化することを確認した。講義の主要テーマは、次の通り。1．生命倫理総論、2．医療現場の倫理問題、3．献体と解剖実習の倫理、4．研究者の倫理、5．動物実験の倫理、6．医療と死生観。

特に、白菊会の方との交流は、1 年生にとって大きな刺激となっており、自ら医学生のために、亡くなったのち「解剖体」となることを志願してくだった想いを、直接学生に伝えて頂く機会となっている。また他のテーマでも、DVD 教材を導入し、「これ以上の治療をして欲しくないという意思表示をしている高齢患者に対し、医学生がその主治医であったら、延命治療の差し控え・中止をどのように判断するか」ということを、チーム医療として実践するために、各グループを「疑似医療チーム」と仮定して、医学用検索エンジンを実際に使ってデータを収集する等を通じて、学生自らが主体的に判断するように促している。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　19（90%）　　②いいえ：　2（10%）　　未回答：　0（0%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　13（62%）　　②６～10 回：　6（29%）　　③11～15 回：　0（0%）

未回答：　2（10%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　4（19%）　　②政治・経済・産業：　8（38%）　　③自然環境・フィールド体験：　7（33%）

④その他：7（33%）・・・「教育、福祉」3 クラス、「感染症」、「宮崎県内の土木事業見学とレポート作成，地域課題リサーチレポート作成」、「学生生活と地域を関連づける講義を実施」、「ビジネスマナー合宿を行った」

未回答:　3（14%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　12 クラス

[1] ディベートの中に，地域の課題を設定して，討論を行った.

[2] 現地訪問の内容として、宮崎市内（木花地区）の繁殖農家を訪問して聞き取り調査を行い、内容をスライドにまとめプレゼンテーションを実施した。

[3] 獣医学、動物学に関連した内容として、口蹄疫、幸島のさる、都井岬の馬に関する題材をとりあげた。幸島のさると都井岬の馬については、学生自身あまり聞いたことがない題材のようであったので、宮崎県に関する知識を得る上でも良かったのではないかと思う。またグループでその題材に関する資料集めをやったので、それなりにグループに特色のある課題発表ができたように思う。

[4] 宮崎県の教育のデータ：いい子が育つランキングは全国有数でもなぜ学力が低いのか

[5] ・県総合博物館を見学し、博物館職員より郷土の博物館の目的と役割について講義を受けた。郷土の自然または歴史展示物についての説明を受けた。また展示物を一つ取り上げ、小中学生向けの学習トピックとしての有効活用について考察・プレゼンテーションを行った。

[6] ・宮崎県立芸術劇場、美術館、博物館などの見学を通して、宮崎の芸術文化教育に触れた。

[7] 学生の関心事項である障害児教育や障害福祉に関する地域の課題を取り上げ。この地域の課題の理解促進のために、宮

崎市障がい福祉課や宮崎市自立支援協議会と連携して、地域課題の紹介をしていただいた。

[8] 地域特有の問題に関するテーマについてのグループワークを実施した。

[9] 「宮崎で活躍する企業とその企業が持つ技術」というテーマで文献調査・レポート作成・発表をおこなった。

[10] 地域の課題についてグループで討論し、1 つのテーマを取り上げ、プレゼンテーションを行うとともに、レポートとしてまとめた。

[11] ・青島でビジネスマナー合宿を行った。

・個人とグループプレゼンテーション、グループワークなどを行った。

[12] 外国人留学生向け講義なので、自国の地域課題について発表してもらい、講義中に宮崎と対比しつつ概説することで、地域課題を組み込んだ。また農学部の横断的な概説を盛り込んでいるので、自然環境と産業（＝農林水産業）の課題は豊富に取り扱った。